



竹田 英司

敗戦のたびに暴飲暴食を繰り返したせいか、私は体がむくみ、肌が荒れ、しかも口内炎で食事をすると痛い。「陳（建禎）さんとコーヒーを飲みに行ってきました」と満足げに報告してきた井上航選手を、「人の気も知らないでんきなものだ」と恨めしく思うほどだ。

愛知・稲沢大会（6、7日）では金子聖輝選手が「このホテルの



背番号10の井上航選手を中心に
今季10勝目を祝う（6日）

◎ 人知れぬ悩み 誰しも

スタッフさんはとても良くしてくださいますね」と言うほど、もてなしていただいた。そのおかげもあって、6日の名古屋戦はフルセットの末に逆転勝ち。首位を走る相手に一矢報いた。

試合直後、エドガー選手が小野寺太志選手に熱心に話し掛けていた。「タイシ、俺は今、最高にうれしい。ずっと言いたかったことがある。たまにフェイントなら問題ないけど、今シーズンは思い切りスパイクを打ち込まないで『どうして逃げるんだ!』といつも苦々しく思っていた。でも今日、タイシは日本一のミドルだと証明してくれた。だから俺はうれしい」

そう通訳すると小野寺選手は「今日は思い切り打つ方が楽しかったです」と落ち着いて答えた。東京五輪の延期など、今季は本人にしか分からない苦悩も背負っているのだろう。

遠征後の8日朝、合宿所でのんびり入浴していると、若手選手が続々と入ってきた。西知恵選手が「一緒に入っていいですか」と聞いてきたので、私は「一人になりたい!」と心の中で叫びながら、逃げるように退散した。

（JT広島マネジャー）